

海軍関係の資料を集めた記念館で、建物は昭和8年に建築された旧海軍の大講堂です。案内は自衛官2名（うち1名は大佐級）がしてくださりましたがこれは異例のことだそうです。



和館と洋館を併置した旧海軍上層部の住宅で、現在は会議室となっています。ところで庭の「心」の池の「心」の字が読めた方はいらっしゃいますか？ 私は読めませんでした・・・



海際を歩いていると自衛隊の艦船が見えるのがやはり“舞鶴の風景”のようです。でも、この日はほとんどが自衛隊のPRに出ていて、停泊していたのは4隻だけでした。



当初は二日目に見学予定でしたが連絡の行き違いで館長が昼から待っているとので急遽予定変更して見学しました。館長は前の週にプライベートで半田まで見学に来訪されていました。



赤煉瓦サマー JAZZ in 舞鶴

19時00分～21時00分
ジャズ祭
22時00分～二次会

今回のツアーの目玉ともいべき「赤煉瓦サマーJAZZ in 舞鶴」。二日間おこなわれるジャズ祭のうち私たちは初日に参加しました。今回で16回目だったのですがいかがだったでしょうか。

ジャズ

第一部の途中からどんどん暗くなって、雰囲気がよくってきました。第二部の招待演奏者になると、やはり音が違う！みんな楽しみましたが、特にジャズの好きな方にはたまらないひとときだったようです。



会場風景



▲入口

▼会場



帰路（散策）

帰りは赤煉瓦ロードを歩きました。ここはかつては国鉄から海軍基地への引き込み線だったものを、地元の子どもと探検を行って、整備したそうです。途中のトンネルはきれいに照明がついており、ふつう夜のトンネルは気持ち悪いものですが、その怖さをあまり感じませんでした。そのトンネルの前で、集合写真をパチリ！



二次会

グループに分かれて二次会です。一番大きなグループは、馬場さんの親類の店に19人がなだれ込みました。ビールやら焼酎やらを飲んだにも関わらず、気がついたら日本酒の1升瓶が2本半空いてました。一人あたり・・・え～と・・・



■ 8月6日（日）

舞鶴市内見学

8時30分 ホテル出発

- ・ 引き揚げ記念館
- ・ 五老スカイタワー

二日目は赤煉瓦を少し離れて舞鶴の街と人を見ってきました。

引揚記念館

ボランティアの語り部の会の方が案内をしてくださり、静かな語り口が印象的でした。戦争を知る人が少なくなっており、その継承が課題となっているそうです。

五老スカイタワー

舞鶴は、東西に分かれており、西舞鶴は室町時代から続く城下町、東舞鶴は明治に開かれた軍港です。その中間の峰に位置するのがこのタワーで展望室の高さは海拔325m！東西舞鶴が眼下に一望できました。舞鶴はリアス式海岸で、軍港は湾口から一直線には入って来れない地形を利用していたことが手に取るように分かりました。



<h2>大庄屋 上野家</h2> <p>11時40分 上野家 着 12時00分 昼食 13時00分 上野家 発</p> <p>元の庄屋の家を保存し、活用しています。今回のツアーの見学先で一番感銘を受けたのは実はここだった、という方も多いのではないのでしょうか。</p>	<p>建物の保存に地元の熱意が高く、舞鶴市は改修には補助したそうですが、運営は補助金なしで、地元で設立されたNPOが行っているそうです。そのため打合せは時にシビアになるそうです。</p> 	<p>この建物、昔ながらに空調がありません。でも風が通り、暑苦しい感じはありませんでした。昼食は昔の結婚式のような雰囲気の中でいただき、それも楽しい経験でした。</p> 	<p>食材はすべて地のものを使用しているとのことでした。昼食の金額は1,500円だったのですが、その金額の食事とはとても思えない豪華で、見た目も華やかなものでした。しかし、当初は客に出せるレベルではなく、研修を重ね、時には山形県と同じような場所へ見学に行つて4~5年かけてようやく今のレベルに到達したそうです。</p>
--	---	---	---

■みなさんの感想

す。

皆さんに今回のツアーについてたくさん感想をいただきましたのでご紹介します。

◆私の一番印象に残ったことは、2日間ガイドしていただいた森口さん。半田市にあれだけ厭きさせないガイドされる方がいるのでしょうか。淡々と話されるのですが本当に舞鶴大好き、どうだ俺の町というのがとても伝わりました。ユーモアたっぷり楽しい旅ができました。あと、大庄屋上野家、以前の私の職業柄接客、料理、価格 すばらしかったです。女将おばちゃんのあいさつ、したしみが有りよかったです。私もできれば半田の歴史あるお屋敷で地元の食材でお客をおもてなしできるお店のマネージャーになることが夢でした。接客していただいたおばちゃんの何もなくてこんな田舎料理で申し訳ないねの言葉がとても心に残り感激しました。ひとつひとつのお料理のことがばっかマニュアルではなく自然体でよかった。私の理想とする接客、お店にとっても満足しました。ありがとうございます。(岩川)

◆一度は行ってみたいと思っていた「舞鶴赤煉瓦倉庫群」／明治35年建設の「市政記念館」／明治の海軍の誇り高い史実と伝統を伝える「海軍記念館」／自衛隊機橋での雄大でそのスケールに圧倒された護衛艦「すずなみ」／「赤煉瓦博物館」世界四大文明の煉瓦等展示、世界唯一といわれる資料の膨大さに圧倒された。

夜は「光と音のショー」しかし、野外で音響効果がいまいち伝わらなかった。本場アメリカで見聞した「ウキウキ・ワクワク」のジャズフェスティバルこの思い

を胸にムンムンとさせていた雰囲気を想定していた私には、チョット拍子抜けであった。

翌日は「岸壁の母」で有名な「引揚記念館」。棧橋で行くことが出来なかったのが残念。／最後に「五老ヶ岳」舞鶴一帯を一望。

今回のツアーは大変充実「欲ばりツアー」といった感じでした。ゆったりとした日程であればもっと有意義に楽しめたのではないかと思った。有難うございました。(平山)

◆「温故知新」

「故きを温ね新しきを知る」 通りに明治時代の軍艦の名前が付けられた舞鶴の街で、赤煉瓦の建物は半田と趣きを異ならせ、こじんまりしたいかにも倉庫然として何棟も並んでいました。その赤煉瓦に囲まれて聞く JAZZ の音色は、一層味わいのあるものでした。

「新しきを温ね故きを知る」 最新鋭のイージス艦の横に接岸した護衛艦「すずなみ」。そんな近代兵器にも、強い味方がありました。今ではあまり見かけなくなったりヤカーですが、良い物は時代を問わず、活躍するのですね。(竹内正)



写真は岸壁に置いてあった「すずなみ」専用のリヤカー

◆前略、2日間楽しい旅行をありがとうございました。2日間の行程で舞鶴を満喫することが出来ました。全行程においてVIPの待遇をして頂いたと思います。それぞれの観光施設はどれもすばらしく印象に残っていますが、一番は2日間案内していただいた舞鶴市役所の「森口さん」です。ポーカークフェイスでありながら豊富な知識で我々を「森口ワールド」に引き込んでいきました。「森口さんありがとう!!」と伝えてください。追伸、土産に買った小さいハタハタの干物おいしかったですよ。酒の肴にピッタリでした。(大橋・酒の文化館館長)

◆舞鶴のイメージは、「岸壁の母」の歌で知られる、引揚げ港と旧海軍の主要地であることくらいで、これまでに、舞鶴を訪れる機会はなかった。今回、倶楽部が、「舞鶴スペシャルツアー」を企画していただいたことは私にとっては、舞鶴を知るよいチャンスであった。舞鶴には入って、まず感じたのは、いたる所に赤

レンガ建物が点在し、倉庫群をなして、想像していた以上に「赤レンガ」の街でありました。旧海軍の面影も随所に見られました。当時、旧海軍の主要施設の多くが、赤レンガ造りで建てられたため、舞鶴には今なお、多くの赤レンガ建物が現存されているのです。現在では、それらの建造物は、舞鶴市の近代化を象徴する歴史遺産として受け継ぎ、民間と行政がまさに一体となり、その保存と活用につとめている、全国レベルにおいても希有な実例だと思います。我、誇るべき半田の「赤レンガ建物」が、近い将来、常時公開・開放に向けて、活用方法・運営について考えた時に、舞鶴は見習うべきことが多いように思います。勿論、半田と舞鶴は立地条件・環境も違いますし歴史的な背景も違いますので舞鶴同様にはいかないでしょうが、倶楽部全員で、創意工夫すれば、その道は開けてくると信じています。(竹内進)

◆今回のツアー参加の目的は、親睦を図ることもありましたが、蔵の町広場での弊社の出店でお土産販売や店舗デザインの参考になることが見つかれればと思いき参加させていただきました。色々参考には成りましたが、感動させられた事は、沢山の方からの心づかいでした。引揚記念館のかたりべの方の引き込まれるような話、屋敷を頂いたお店のおばあさんの地元の産物を使った心温まる手作りの料理、職員の方のユニークなガイド(知多バスのガイドさんは出る幕無し)私が再確認できたのは、立派な施設や歴史のある建物も大切ですが、そこでお会いできた熱心な方々のおもてなしが何よりも感動を与えるのだと。良い思い出をありがとうございました。(石垣・魚

福本店)

◆今回、赤煉瓦倶楽部半田のメンバーさんをはじめ多くの半田の方々と一緒に舞鶴に行かせていただきありがとうございました。一泊二日の視察会でしたが目的がはっきりしていて大変内容のある「舞鶴ツアー」であったように思います。舞鶴の方々のおもてなしが一番の印象に残りました。森口さんの案内には本当に脱帽です。森口さんに舞鶴の光を覗かせていただきました。半田の赤レンガ建物も今後多くの市民の「誇り」になるようじっくり育てていく事が大切に思います。

「温故知多新」・・・半田運河・黒塚の蔵・山車・柳がゆれる新川の復元
豪商の町並・東雲橋付近の桜並木・紺屋海道・赤レンガ建物等

あの華やいだ明治の頃の半田を皆で再現し、子供たち孫たちに「半田の誇り」を引継ぎたいと考えます。(榊原泰裕・半田観光協会)

◆夕暮れ時のジャズは良いですね。気持ちの良い潮風とレンガ建物を映し出す照明と私的にはジャストミートでしたね・・・。16年とか続いているジャズ祭りが、今年でなくなるかもしれない?とお聞きしましたが、もし本当でありましたら「もったいない」ですね。いろいろなモノと融合して、工夫して、新たな発展を期待します。また、裏方さんは大変だと思いますが、ボランティアに参加された方が達成感や楽しい仲間と汗を流した気持ちを持ち続けることが出来るようもっともっと盛上げて、後方支援できる体制が大切かなと思いました。文化の薄れ行くまち半田も、いよいよ赤煉瓦建

物を中心に地域文化の発信拠点になればと期待を寄せるところです。(左右木)

◆明治 35 年に建設された旧海軍の兵器倉庫は「舞鶴市政記念館」として補修され、「NPO 法人赤煉瓦倶楽部」が市より委託運営を受けている。館内には多目的ホールと喫茶、歴史展示コーナーがあり一般市民に解放され、定期的にジャズコンサートが開かれ芸術と文化の場所として利用されている。半田市には明治 31 年にビール工場として建設された赤煉瓦建物があり当時の半分が現存している。北西には住吉神社があり桜咲く 4 月には春祭り「ちんころ祭り」とも調和している。赤煉瓦建物に使用された煉瓦数は日本有数といわれ、大規模建造物であったことが伺える。また昭和 20 年米軍機による機銃掃射弾痕跡は戦争遺産としての歴史がある。この貴重な財産である「半田赤煉瓦建物」を保存し市民の憩い場所として活用できるようにしたい。(小林)

◆舞鶴スペシャルツアーに参加して、赤煉瓦への興味が少しわきました。舞鶴市には、海軍記念館をはじめ公共施設だけでなく、民間企業の倉庫であったり、飲食店等の建物も含め 200 以上の赤煉瓦建物が残っているのは非常にびっくりしました。さすが、赤煉瓦の街「舞鶴」と思いました。又、NPO 法人が市から委託され市政記念館の運営で成功されているのは、今後半田が赤煉瓦建物を有効活用する上で見習うべきかなと思います。(竹内稔晴)

